

新任のご挨拶
場長 五十嵐保正



このたび安井前場長の後を受けて、富士養鱒場長を拝命いたしました。どうかよろしくお願いたします。

私はウナギ、ニジマス、アユ等の内水面養殖業や河川漁業を十年余り担当し、当場は二度目の勤務となります。以前勤務した平成元年からの 5 年間は場内の施設の建て替えや平成 8 年から続いた生産・供給業務の移管が決定されるなど富士養鱒場にとって変革の時期でした。

また、養鱒業界におかれましても、ニジマスの消費を向上させるため新たな加工品の開発を行う一方、付加価値を高めるためアスタキサンチンや D H A 等の投与試験も行われていました。ギンザケの種苗生産が一大ブームになったのもこの頃でしたが、ヤマメ、アマゴ、ヒメマス等新魚種の導入と釣り堀への活魚出荷が増加傾向にありました。

あれから僅か十年余りですが水産業界を取り巻く環境は大きく変わってまいりまし

た。食品の偽装表示事件や B S E の発症等食品の安全性を脅かす事件が相次ぎ、消費者の食品に対する不信感の高まりから、安全、安心といった消費者の視点に立った生産形態の変化が求められています。こうした流れを受け、富士養鱒場の研究業務も薬剤を使わない防疫対策など食の安全性を意識した研究や、養殖業者の皆様と養殖管理に関する検討会を開きトレーサビリティを視野に入れた新たな管理システムの構築も検討しております。この他の研究課題といたしましては、バイオテクノロジーを活用した育種研究や魚が望むときに摂餌できる自発摂餌システムの改良など生産性の向上や環境へ配慮した養殖技術の開発研究を行うとともに、絶滅危惧種であるヤマトイワナの資源回復など河川漁業関係の研究にも取り組んでおります。

近年、研究分野も限られた資金を有効に活用するための競争原理が広く取り入れられるようになりました。研究の質の向上と予算、人員の効率的運用が旧来にも増して求められており、水産試験場として例外ではありません。こうした背景の中、養鱒業界や河川漁業界の皆様のご意見、ご要望を十分に踏まえた効率的研究の推進と研究成果の迅速な普及に職員一同と力を合わせて取り組んでまいりたいと思っておりますので、今後とも皆様方のご支援、ご協力を重ねてお願い申し上げます。

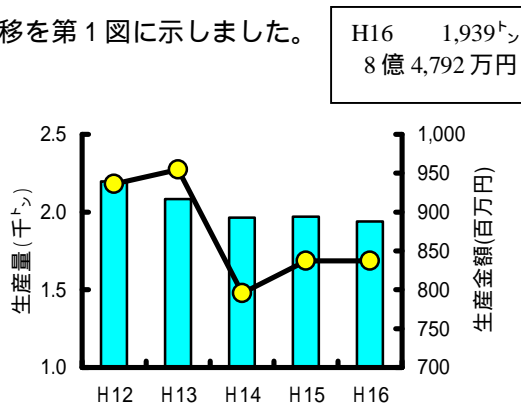
平成 16 年のサケ科魚類の生産と魚病被害の状況

平成 16 年の静岡県におけるサケ科魚類の生産と魚病被害の状況がまとまったので、お知らせします。

1 ニジマス

(1)生産量

静岡県における養殖ニジマスの生産状況の推移を第 1 図に示しました。



第 1 図 静岡県における養殖ニジマス生産状況
(生産量：棒 生産金額：折れ線)

平成 16 年の生産量は 1,939 トンで、生産金額は 8 億 4,792 万円でした(生産単価：437 円/kg)。生産量は 14 年から 3 年続けて 2,000 トンを下回り、過去 5 年間で最も少なくなりました。生産金額は 15 年と比べ 1,066 万円増加し、これはほぼ 1.2% 増に相当します。

(2)魚病発生状況

平成 16 年の静岡県における養殖マス類の魚病被害状況を魚病別に第 1 表に示しました。

16 年のニジマス魚病被害量は 171 トンで、被害金額は 1 億 1,343 万円であり、生産量の 8.8%、生産金額の 13.4% に相当しました。

これを疾病別にみると最も被害量が多かったのは、富士宮市内や伊豆地域の一部の養魚場で大きな被害を与えた連鎖球菌症で、49.2

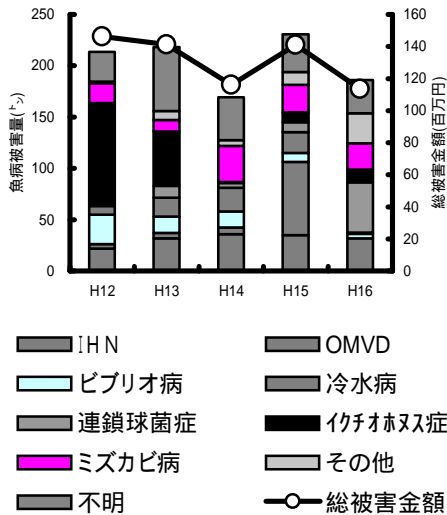
トンの被害量がありました。連鎖球菌症は発病サイズが数 10g からキロサイズまでと比較的大型であることが、被害量を大きくした要因といえます。連鎖球菌症に次いで被害量が多かったのは IHN で 31.7 トンでした。

その他では不明を除くとミズカビ病、細菌性鰓病、イクチオホヌス症が 10 トン以上の被害となり、被害量はそれぞれ 25.6、13.5、12.4 トンでした。なお、15 年に大きな被害を与えたヘルペスウイルス病(OMVD)は 16 年には被害がなくなっていました。しかし、OMVD はある時突然発生し、大型魚に対して大きな被害を与える事例が多くみられることから、今後も注意が必要な疾病であることには間違いありません。

ニジマスの魚病被害状況を被害金額でみると、最も被害金額が大きかったのは IHN で、4,876 万円でした。被害量が最も多かった連鎖球菌症は 1,683 万円の被害でした。この様に被害量と被害金額が逆転しているのは IHN が主に稚魚で発病するのに対して、連鎖球菌症は大きなサイズで発病するためといえます。その他ではミズカビ病とイクチオホヌス症が被害金額 1,000 万円を超えました。

静岡県における養殖ニジマスの魚病被害の推移を第 2 図に示しました。

過去 5 年間のニジマス魚病被害量は 169 ~ 231 トンであり、被害量 200 トンを下回ったのは 14、16 年でした。12、13 年に被害の大きかったイクチオホヌス症は 14 年に激減しましたが、その後再び増加する傾向にあります。16 年にもっとも被害量が多かった連鎖球菌症は、比較的大型の魚に被害を与えるだ



第2図 静岡県における養殖ニジマスの魚病被害の推移
(被害量：棒、被害金額：折れ線)

けでなく、承認されている水産用医薬品もないため、早急に治療対策を確立する必要があります(全国養鱒技術協議会魚病対策研究部会においても取り組んでいるところです)。なお、被害金額については、15年はOMVDの影響で被害量は増加しましたが、ここ数年は概ね減少傾向を示しています。

2 ギンザケ、アマゴ、イワナ

(1)生産状況

静岡県におけるニジマス以外の養殖マス類の生産状況を第3図に示しました。

平成16年の生産量はギンザケ、アマゴ、イワナそれぞれ82、43、121トンで、生産金額は4,840、6,825、8,244万円でした。したがって、それぞれの生産単価は590、1,587、

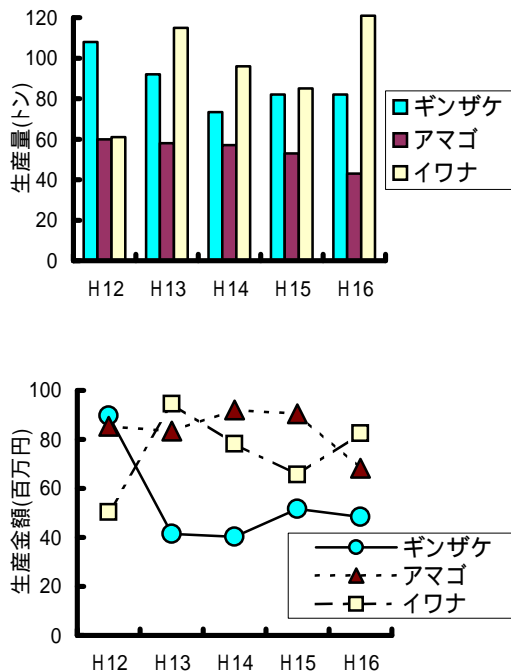
第1表 静岡県における養殖マス類の魚病被害状況(平成16年)

上段：被害量 kg、下段：被害金額 千円

	ニジマス	ギンザケ	アマゴ	イワナ	合計
IHN	31,680		60		31,740
OMVD (ヘルペスウイルス病)	48,762		200		48,962
EIBS (赤血球封入体症候群)		5,000			5,000
		6,400			6,400
ビブリオ病	4,600				4,600
	2,090				2,090
せっそう病			3,002	4,000	7,002
			5,503	3,800	9,303
冷水病	1,000				1,000
	900				900
連鎖球菌症	49,200				49,200
	16,825				16,825
細菌性鰓病	13,515			1,000	14,515
	8,700			600	9,300
白点病	500				500
	600				600
イチオハス症	12,400				12,400
	11,000				11,000
ミズカビ病	25,551		15	10	25,576
	11,641		12	8	11,661
不明	32,300	200	220	1,000	33,720
	12,250	100	409	1,000	13,759
ガス病	700				700
	660				660
合計	171,446	5,200	3,297	6,010	185,953
	113,428	6,500	6,124	5,408	131,460

681 円 / kg となりました。

過去 5 年間の生産状況の推移をみると、ギンザケは平成 12 年の生産量は 100 トンを超えていましたが、13 年以降は 100 トンを下回るようになりました。生産金額も 9,000 万円であった 12 年と 4,000~5,000 万円程度のそれ以後では大きな隔たりがあります。アマゴは 12 年には生産量 60 トンでしたが、その後徐々に減少し、16 年には 15 年と比べて 19% 少ない 43 トンにまで減少していました。アマゴの生産金額は 12 年から 15 年までは 8,000~9,000 万円で推移しましたが、16 年には 6,825 万円まで減少しました。イワナは年変動が大きな魚種であり、13 年から 15 年までは減少傾向となりましたが、16 年には 121 トンの生産量となり、これは 15 年と比べて 42% 増に相当します。生産金額は生産量に対応した変動となり、16 年の 8,244 万円は 15 年比 25% 増です。

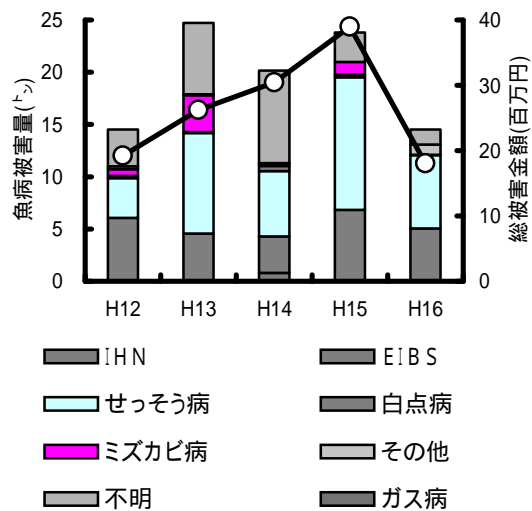


第3図 静岡県におけるニジマス以外の養殖マス類生産状況 (生産量：棒、生産金額：折れ線)

(2) 魚病発生状況

ギンザケでは平成 16 年の被害は不明を除けば EIBS のみで、5.0 トン、640 万円の被害でした。アマゴはせっそう病の被害が多く、被害量 3.0 トン、被害金額 550 万円はアマゴの魚病被害全体の約 90% を占めていました。イワナはせっそう病と細菌性鰓病の被害が多く、せっそう病は 4.0 トン、380 万円、細菌性鰓病は 1.0 トン、60 万円の被害でした。

静岡県におけるニジマス以外の養殖マス類の魚病被害状況を第 4 図に示します。



第4図 静岡県におけるニジマスを除く養殖マス類の魚病被害状況 (被害量：棒、被害金額：折れ線)

総被害量をみると、平成 12 年と 16 年は 15 トン未満であり、13~15 年が 20 トン以上でした。被害金額では 12~15 年までは増加傾向を示しましたが、16 年は 1,803 万円と大幅に減少し、過去 5 年間ではもっとも少ない被害金額となりました。15 年の被害金額が 3,895 万円であったので、16 年は半分以下に減少したことになります。(青島秀治)

吉水先生の講演会が開催されました

「これからの養殖管理～種苗導入から食品としての出荷まで」



3月8日(火)に、富士養鱒漁業協同組合会議室において第4回養鱒研修会が開催されました。今年度は北海道大学の吉水教授よりご講演をいただきました。

養鱒研究会とは、平成13年度から始まった県の普及事業「意欲ある漁業者による自主的活動の支援事業」に基づき事業化したもので、富士養鱒漁協と富士養鱒場が協力して運営する会です。本研究会は、魚価の低迷・売行き不振等で非常に苦しい状況にある養鱒業界をどのように立て直していけばよいのか話

し合い、実践することを目的としています。

第4回目の今回は、生産現場で実践していかなければならない内容ということで「これからの養殖管理～種苗導入から食品としての出荷まで」というテーマで講演いただきました。マス類養殖の現場で発生する様々な疾病を防ぎ、被害を軽減するためには何が必要なのか。さらに、食品業界で問題となっている食の安全保証システムのあり方についてや養鱒業界の現状をどうやって打破していくべきか、といった問題についてご講演をいただきました。フリートーカーでも、吉水先生は魚病の研究で精力的な活動をされていることもあり、参加された養鱒業者の方々から活発な質問や意見が出され、いろいろと新しい情報を交換することができました。来年度以降もさらにテーマを発展させながら本研修会を継続していき、富士宮の養鱒業を発展させるための情報交換の場を提供できればと考えています。

(中村永介)

平成17年度人事異動

転出

分場長 安井 港

水産試験場 利用普及部長

転入

分場長 五十嵐 保正

水産試験場 深層水プロジェクトスタッフ 研究主幹

富士養鱒場の湧水と気象

月	降水量 (mm) カッコは降水日数		湧水量 (千トン/日)	
	17 年	20 年平均	17 年	20 年平均
1月	44(12)	76(6)	6.94	3.62
2月	55(8)	76(6)	5.53	3.00
3月	185(10)	196(9)	4.46	2.98

月	平均気温 ()			天候 (午前9時、日数)				
	午前9時	最低	最高	快晴	晴れ	曇り	雨	霧
1月	1.7	-1.4	6.0	1	22	5	1	2
2月	1.8	-1.8	6.1	2	7	16	3	0
3月	4.9	-0.1	9.2	0	18	8	3	1

日 誌

<p>1月 4日 仕事始め</p> <p>5日 業務連絡会議・分場長会議(本場)</p> <p>11日 本監査(本場)</p> <p>14日 にじます産地交流・視察事業見学</p> <p>31日 漁業士認定式(静岡市)</p> <p>2月 1日 日本食品加工来場</p> <p>3日 業務連絡会議・分場長会議(本場)</p> <p>4日 漁業士会総会・研修会(伊豆長岡)</p> <p>7日 文書管理システム研修(~10日 富士市)</p> <p>9日 研報編集委員会(本場) 内水面研究推進会議(~10日 横浜市)</p> <p>10日 第202回技術連絡協議会(浜名湖分場)</p> <p>15日 富士宮市立大富士小学3年生一行見学 180人</p> <p>16日 海洋大舞田助教授来場(~18日)</p> <p>18日 東海大学秋山教授来場</p> <p>23日 旅費実務研修会(沼津市)</p> <p>24日 業務連絡会議・分場長会議(本場)</p> <p>28日 魚病対策委員会技術部会(県庁)</p> <p>3月 1日 水産業改良普及員一般研修(本場)</p> <p>2日 富士宮市立黒田小学校3年生一行見</p>	<p>学 120人</p> <p>4日 業務連絡会議・分場長会議(本場)</p> <p>7日 全国養鱒技術協議会幹事会(東京) 水産・栽培漁業専門部会(本場)</p> <p>8日 北大吉水先生講演会(漁協)</p> <p>9日 北大吉水先生来場</p> <p>10日 渓流域管理体制構築事業担当者会議(東京) 粉ワサビに関する試験研究打合せ(富士市)</p> <p>15日 防災方面本部事前説明会(沼津市)</p> <p>16日 富士養鱒場生産関連機関連絡協議会</p> <p>17日 水産振興審議会(御前崎市) 品種登録に関する勉強会(三重県玉城町)</p> <p>排水処理施設汚泥引き抜き</p> <p>19日 正門トイレ供用開始</p> <p>23日 魚病対策委員会・防疫対策会議(静岡市)</p> <p>給与事務担当者会議(本場)</p> <p>24日 富士地区出先機関長会議(富士市) 伊豆地区業者巡回(~25日 伊豆)</p> <p>排水処理施設汚泥引き抜き</p>
---	---

